

2023年度 日本工学院専門学校											
ITスペシャリスト科											
テスト技法											
対象	3年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	税田 竜一			実務 経験	有	職種	システムエンジニア				
担当教員紹介											
AI分野に関する研究を行う。その後、大学や専門学校で非常勤講師として、Web開発やプログラミング系授業にて講義を行った経験を持つ。											
授業概要											
ソフトウェア開発において、開発フェーズや目的などに合わせて必要となる適切なテスト技法を学習する。 システムやアプリケーションの品質を確保していく上で、システムエンジニアに必要とされる知識と技術を実践レベルで身につける。											
到達目標											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 同値クラステストや境界値テストを始めとする、多くのテスト手法をしっかりと理解し、活用できるようになる。 2. 仕様書や詳細設計書からテスト手法を選定し、実際に試験項目の作成と試験の実施ができる。 3. 試験結果を集計・分析し、分析結果から、品質の良し悪しが判断できる。 											
授業方法											
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学習してきたテスト手法について、振り返りを行い理解を確認する。 2. 様々なソフトウェアテストの技法の基礎知識を理解する。 3. 例題や演習課題を通じて、テスト技法の実践的なテクニックを習得する。 											
成績評価方法											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験・課題（レポート） 70% 定期試験や提出課題を総合的に評価する 2. 平常点 30% 授業への取り組み姿勢、態度を総合的に評価する 											
履修上の注意											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の私語、飲食は禁止する。授業時数の4分の3以上出席しない場合は定期試験を受験することができないため注意する。 2. 聴講だけではなく、各自が演習課題に取り組み、納期までに提出する。 3. 将来のICT社会をリードしていく立場として、課題に対する意見交換や提言を行う。 											
教科書教材											
ソフトウェアテスト技法ドリル 秋山 浩一（著）（日科技連出版社） その他、オリジナル課題、プリントなど											
回数	授業計画										
第1回	ガイダンス・テスト技法の復習 テスト技法の基礎が理解できる										
第2回	1章 点に注意を向ける ピンポイントテストを理解し、過去の経験を活かすことができる										
第3回	2章 線を意識する 同値分割と境界値分析の基本が理解できる										
第4回	2章 線を意識する 同値分割と境界値分析の応用が理解できる										
第5回	3章 面を逃がさない ドメイン分析テスト・デジジョンテーブルが理解できる										

2023年度 日本工学院専門学校	
ITスペシャリスト科	
テスト技法	
第6回	3章 面を逃がさない 原因結果グラフ・CFD法が理解できる
第7回	3章 面を逃がさない 課題演習
第8回	4章 立体で捉える HAYST法が理解できる
第9回	4章 立体で捉える ペアワイズが理解できる
第10回	4章 立体で捉える 課題演習
第11回	5章 時間を網羅する 状態遷移テストが理解できる
第12回	5章 時間を網羅する 並列処理テストが理解できる
第13回	6章 多次元の品質 人間に対するテスト・ソフトウェアテストが理解できる
第14回	6章 多次元の品質 シナリオテスト・受入テスト・品質保証のテストが理解できる
第15回	まとめ・試験 総合的にテスト技法が理解できる